

校 内 研 究

1 研究主題

主体的・対話的に学ぶ児童の育成

～学び合う授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

平成 29 年 3 月公示の新学習指導要領における第 1 章総則において、「学校の教育活動を進めるにあたっては、『主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善』を通して創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で児童に生きる力を育むことを目指すものとする。とした。本校では「学びの共同体」の理念をもとに研修を重ね、日々の授業に取り組んできた。その結果、児童が「学び合い」を意識して学習に臨むように育ちつつある。また、小規模校の特性を生かした授業改善や集合学習等を充実させ、個別指導やはげみ学習等で学力向上を図ってきた。

しかし、「わからない」問題をそのままにしたり、困難な問題に対してあきらめたり、「わからないから、教えて」と言える学び合いや多面的に思考し、学び高め合うことに課題がみられる。

そこで、日々の授業で「なぜ?」「知りたい」「分かってほしい」などの主体的で協同的解決に向かう学び合う場面を設定し、課題の工夫や、教師の手立てを創意工夫することで、児童一人ひとりの課題解決に向かう力や、対話を中心とした探求的態度が育っていくものとする。きき合う、かかわり合う、支え合うことで、児童一人ひとりの「学び」に広がりや深まりが促進されることが重要である。そのために「学びの共同体」の理論を全職員で共通理解し、具現化を図る授業実践を重ねることで、主体的・対話的に学ぶ児童の育成につながるよう、本主題を設定した。

3 研究仮説

児童一人一人の「問い」を起点に、対話（学び合う）場面を設定し、課題や教師の手立てを工夫することで、思考力・判断力を高め合う中から、主体的・対話的に学ぶ児童を育成することができるであろう。

4 研究の方針

- (1) 学校教育目標の具現化のため、校内研修と学力向上推進を一体的に捉え、組織的・計画的に研究活動を推進する。
- (2) 全職員の共通理解のもとに研究を進める。
- (3) 学校・学級・児童の実態に対応して理論研究及び授業実践を重ね、子どもの可能性を拓く授業を追究していく。
- (4) 「学びの共同体」を推進するため、村教育委員会の指導主事を招聘しての授業研究会を持つ。
- (5) 校内研修日は原則として毎月第四火曜日とする。授業研究日は原則日に限らない。
- (6) 同僚性と授業の質を高めるために、授業参観者は、必ずアドバイスや授業における参観者の気づきを話すようにする。
- (7) 研究授業は、国頭教育事務所の指定の指導案形式を使い、一人一授業を実施する。

- (8) 日頃の研究授業は、村教育委員会指定の授業デザインシートを活用し、実践する。
- (9) 校内研修は研究テーマ設定による研修、及び教育課題に対する職員の見識を高める研修を実施する。
- (10) 各学年・学級に応じた手立てを考え、「学び合う」授業づくりを研究する。
- (11) 研究授業の2週間前位には、全員で指導案検討会を持ち、助言やアドバイスを行う。
- (12) 学級の実態から「個人テーマ」を設定し、視点を明確にして授業力向上を図る。

5 研究の内容

- (1) 「学びの共同体」についての理論研究
 - ①心がける・・・授業デザインへ向けての心構え
 - ②気にかける・・・授業中に子どもたちの様子を見る視点

	① 心がける	② 気にかける(見取る)
主体的 学びの 成立の ために	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの「なぜ?」「どうして?」などの子どもの「問い」を大切にする。 ◎深い学びにつながる発問の工夫。 ◎自分で解決に向かったり、仲間と一緒に考えたりする時間の設定。 ◎子どもが挑戦したくなるような問題の工夫。 ◎教師や仲間の発言の後に、しっかり考える間を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> →他者の発言やテキストから自分なりの「問い」や考えが持っているか? →課題やテーマとのつながり。 →困難な課題に向かう意思を持って臨んでいるか。 →夢中になって解決に向かっているか。 →子どもの「問いや疑問」に教師がすぐに反応しないで仲間につなぐ。
対話的 学びの 成立の ために	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもが互いの考えや意見を「きき合い」自分の考えを吟味する、対話による学び合いの時間の設定。⇒(グループ、ペア) ◎子どもの表情やしぐさ、つぶやきを見取るようにする。(子どもの困り感に寄り添う) ◎課題や問題に対して仲間と吟味し、自分なりの見方や考え方の深まりや広がりを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> →グループやペアで「きき合い」が成立しているか? 「言い合い」になっていないか? →対話に消極的な子どもは、意図的に教師が仲間につなぐ。 →「分からない」こと、「分かりたい」ことなどの対話の質を見取る。

③教師と子どもの関係、子どもと子どもの関係

「分からないこと」を依存できているか?
依存されたら、寄り添って対応しているか?

④教師の指導技術・・・教師の学習指導を「発信」から「受信」に変える

- 発問・・・課題への誘い、思考するきっかけ、等
- 「学び合い」への『聴く』・『つなぎ』・『もどす』

その1『聴く』

- 発言やつぶやきが何を根拠に発せられたか
- テキストの資料のどこにつながって発せられたか
- 以前の考えや発言とどうつながって発せられたか

その2『つなぎ』

- 学級の仲間とつなぎ
つぶやき、発言につなぎ
- テキストや資料とつなぎ
- 社会の事象や過去、未来とつなぎ

その3『もどす』

- 子どもがつまづいているとき
- ・テキスト、資料にもどす
- ・課題にもどす
- ・グループにもどす
- ・全体にもどす

ケアする

子どもの目、仕草、顔の表情や身体の動きから子どもの困り感やつまらなさ等を感じたら子どもの傍らでケアする。
教師によるケア・子ども同士によるケアの配慮

⑤課題設定のレベル、授業デザイン（流れ）、学びの質

課題は、学びの質、思考を深めるレベルになっているか？
授業のデザインに無駄や偏りはなかったか？

(2) 「対話」（学び合う）場面を取り入れた授業の工夫

①本時の課題提示 ⇨ 基本的な問題や課題

1回目のグループ活動：基本的なことをグループ内で共有する場面
：全体の底上げを図る場面

○まずは個人でトライ ⇨いきづまったら⇨個人作業の協同化へ
つまづいた子をきっかけに学び合いが必然に発生するようにしたい

○教師は、子どもと子どもの互いの学び合いをうながす。

▲教師が出過ぎない（子どもの動きを見守る机間支援）

②全体でのすり合わせ I

全体で意見や考えをすり合わせる場面

○グループ内でた学びを全体で共有する

○全体の息づかいをあわせる（他のグループ内の考えとつなぐ）

▲教師は、個の意見や考えを「聴く」こと「つなぐ」ことに気を配る

③2回目の課題提示 ⇨ ジャンプ問題（簡単には解けない問題）

2回目のグループ活動：高い課題に挑戦する場面（できそうでできない）
：レベルの高い上位層に合わせた問題や課題

○どれだけのレベルまで上げるか？教師の見取りがカギになる。

▲課題が簡単だとつまらなさを感じる。

▲学び合いが滞っていないか、グループと個人へのケアへ気を配る

④全体でのすり合わせ II ※全体のすり合わせ I・IIは、状況や場合によって設定する
多様な考えをみんなで認めあい共感を図り、子どもの自己存在感や「学びの
達成感」を共有したい。（次へのつなぎ）

○授業の反省や感想はできるだけ明日へのつなぎを考えさせ、さりげなく終わる

(3) 指導と評価の一体化を図る授業の工夫

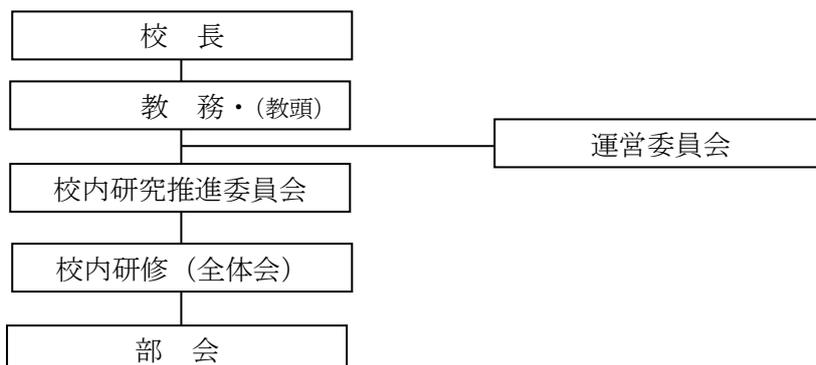
○主事招聘による公開授業

○学期一回の互見授業

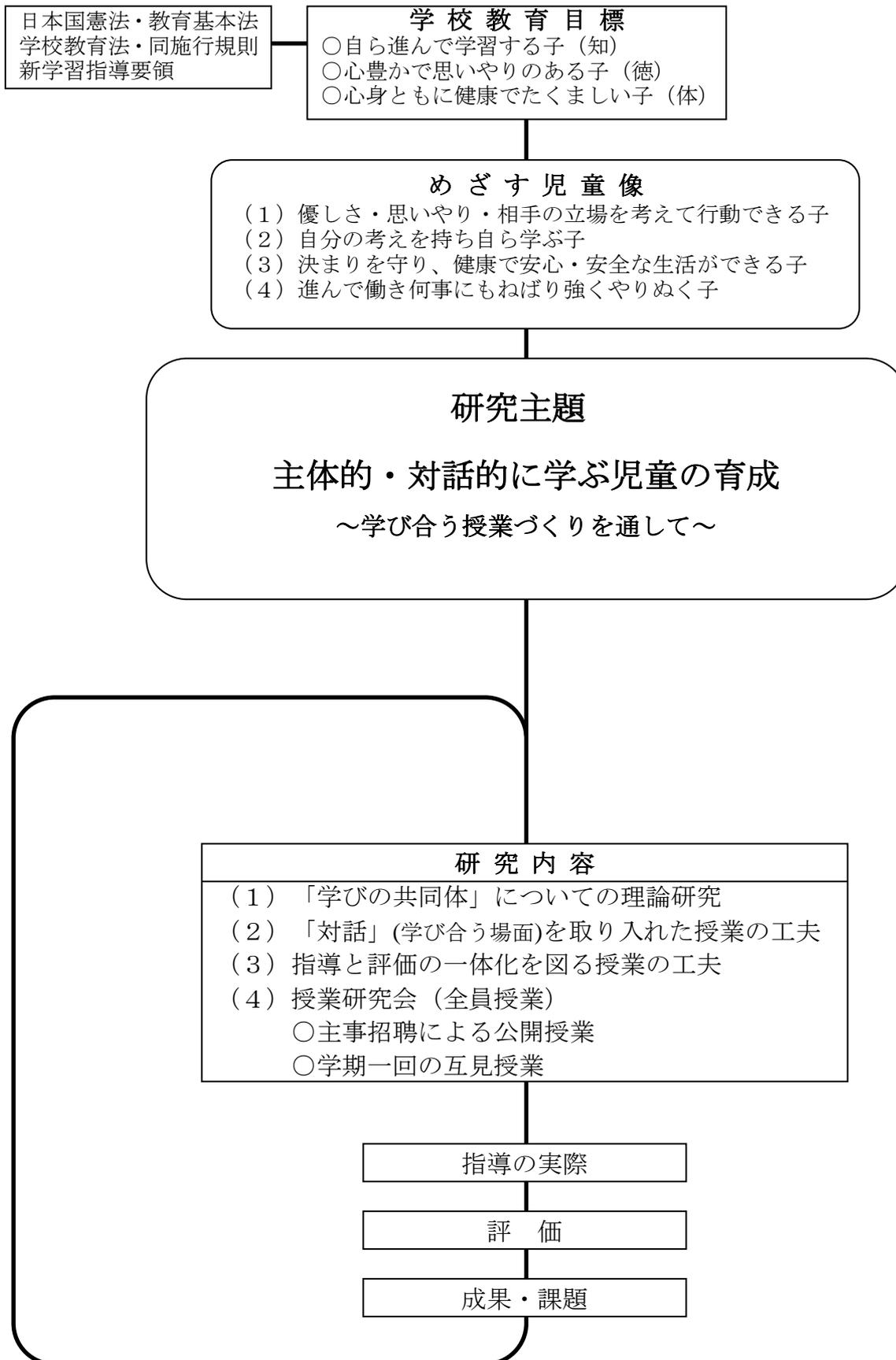
授業研究・協議会のポイント

- ① 子どもの「学び」を見取る力
（授業者・参観者等による省察）
- ② 固有名詞と事実で語る
- ③ 代案を語る
- ④ ワークショップ型 等

6 研究組織



7 研究構想図



8 研究年間計画

月	日	曜	研究及び研修内容	要請指導主事及び講師
4	4	水	校内研テーマ・内容・年間計画の確認 サービス・人権ガイドブック	研究主任
	5	木	村内新任赴任教職員研修会「学びの共同体」	講師安波小校長 宮城尚史
	24	火	校内研（ ）	県総合教育センター
5	18	金	村へき地研修（安波小学校）	永島先生
	22	火	校内研修（全国学力・学習状況調査の結果分析等）	
6	5	火	①指導案検討会	
	19	火	①校内授業研究会（ 年 ）	主事招聘
	21	木	村内研修会（第1回交流学习）	奥間小学校
8	21	火	夏休み校内研（外国語）	研修伝達
	22	水	夏休み校内研（ ）	県総合教育センター
	28	火	村内研修会（第2回交流学习）	辺土名小学校
9	20	火	②指導案検討会	
10	2	火	②校内授業研究会（ 年 ）	主事招聘
	4	木	③指導案検討会	
11	16	火	③校内授業研究会（ 年 ）	主事招聘
	21	水	④指導案検討会	
12	4	火	④校内授業研究会（ 年 ）	主事招聘
	5日(水)～12日(水) 校内研修の成果と課題についての回答期間			
	25	火	校内研修の成果と課題についてのまとめ 研究集録作成について	
12/26日(水)～1/21日(月) 研究集録用資料作成期間				
1	22	火	研究集録原稿提出〆切り	
1/23日(水)～2/18日(月) 研究集録印刷・製本				
2	26	火	研究集録で確認（研究方針・次年度の校内研修）	

※授業者の中で一人は、道徳を受け持つ。授業研究会（指導助言等）の中で道徳についての研修を深める。

※特別支援学級と1・2年は、T・Tで授業をする。

※主事要請授業研究会は基本的に2回、しかし5年研（各教科1回と道徳又は特活を6月～12月の間で実施）・10年研者を優先する。

※互見授業による、教師が学び合う機会を持つ。省察によるリフレクションでの見取る力の向上を図る。各教師とも学期に1回以上行う。